

平成27年度 日本大学習志野高等学校  
外部評価結果（総括）

平成27年度、習志野高等学校より依頼を受けた外部評価者3名の代表として、以下の通り外部評価結果を総括いたしました。

☆生徒の安全、危機管理について

当該項目について関心を持っている点、特に注目した取り組み

●交通安全

通学路を明確にし、教員による登校指導が適切に行われている。自転車通学者には毎年交通マナー講座の受講を義務付けが図られている。

●災害対策・防犯対策

防災への備えとして、①校舎が新しく耐震対策もしっかり取られている、②防災訓練が火災・地震など災害別に行われている、③食料・飲料水の備蓄なども万全の体制がとられている、など信頼性は高い。

●施設・設備（新校舎・グラウンド）の充実

災害以外の危機管理に関しても、①防犯カメラの設置、②AEDの設置と使用講習会の実施、③衛生管理（毎月実施される上水検査や疾病対応体制、保健施設）などが整っている。

当該校の取り組みについて優れていると認めた点

●登校指導、自転車マナー講座、防災訓練、AED講座、教職員の防災研修など着実な取り組みを行っている。

●情報管理 日本大学と連携し情報管理を行っている。個人情報などマル秘情報の管理も教職員だけでなく、生徒へも啓蒙を図っている。

●ソーシャルメディア対応 インターネットの発展と共に注目されているソーシャルメディアの弊害（過度の依存や情報の拡散、出会い系・ストーカー・いじめの温床）についての教育を毎年それぞれ生徒向け、保護者向けに行い、被害を未然に防ぐべく対策を採っている。また、学校非公式サイト（いわゆる裏サイト）のパトロール、個人情報流失やネットいじめ対策について外部機関も活用し対策を取っている。

●船橋日大前駅から学校までの通学は、理工学部船橋キャンパス内を通るため、安全性は極めて高い。北習志野駅から学校までの通学についても通学指導等で安全性の確保は、十分に出来ている。また、体育館への専用陸橋が整備されており、安全に通行できる。

●新校舎は、耐震性・耐火性に優れており、防犯対策として最新鋭のカメラシステムが配備されている。

●AEDの適切な配置及び、AEDの使用法に関する講習を新任教員（専任教員及び非常勤講師）に実施している。平成27年度は、東京都本所防災センターにて全専任講師に対してAEDの使用法を含む防災研修を実施した。

●生徒も日大習志野高校生としての自信と誇りを持って、これらの取組について協力し行動をしている。

### 改善が必要と思われる点、今後望まれる取り組み

- 防災用品の備蓄については、一通りの整備がなされているが、理工学部と連携して、防災備蓄について具体的な取り決め等を行っておくことが望ましい。また防災備蓄保管場所については損壊に備え、専用コンテナ等を配置する等の対策をとることが望ましい。
- AEDの講習については、地域の消防署とも連携して教員・生徒ともに普通救命講習等を受講できる機会を設けることが望ましい。

### その他気づいた点、疑問点など

- グラウンドの人工芝化によって施設・設備は充実している。隣接する旧校舎は学部所有という事であるが、将来的には高校側で活用できるような形が望ましい。

## ☆保健衛生に関する生徒への指導・相談体制について

### 当該項目について関心を持っている点、特に注目した取り組み

- 健康診断及びその事後対応・生徒相談室
- 特に保健室及び生徒相談室の整備状況
- 上水検査
- トイレ管理

健康診断は学校安全衛生法に則り実施され、学校医の東船橋病院と連携し生徒の個別健康相談も行っている。また最新の保健設備も整っている上、体育教員との連携による受け入れ態勢も取られている（専任の養護教諭不在時など）。上水の検査など適切に実施されている。

### 当該校の取り組みについて優れていると認めた点

#### ●心理相談

二名の臨床心理士と契約し、生徒や保護者は希望すれば毎週火曜と木曜日に専用の生徒相談室にてカウンセリングを受ける事が出来る。予約方法は教員・保健室経由のほか、直接申し込みも出来、他の人の目に触れないようプライバシー保護にも注意している。そのお陰で相談者は着実にふえているとのことである（相談内容として多いのは、自身の性格や家族についてなど様々）。

思春期の子どもは、心理的に不安定で毎日悩みやストレスに追われ、精神的にも未発達なため、ちょっとしたことで精神的につらい日々を送るものと思われる。そうした中で、最も大切な事は「誰かに相談する」ことであろう。そういった意味で、心理相談のもつ意味は、大変重要であると感ずる。

●定期健康診断及び臨時健康診断、健康相談等が未受診者への対応も含め、計画的かつ適切に実施できている。特に学校医と学校歯科医による健康相談が定期的に行われ、行事等の運営にも活用できている。

●安全・健康指導が効果をあげ、保健室の負傷・疾病等の来室者が減少している。

●保健室及び生徒相談室は新校舎の整備とともに、利便性を考慮した施設としての機能を備えている。感染症予防等のポスターや新聞記事等も廊下掲示板等に掲示され、生徒の目に留まるように工夫されている。

●最重要課題のひとつにトイレ施設の充実と完備がある。ほぼ完璧といえる状態に整備されており、

保健衛生はもとより、様々な波及的な良結果に繋がっていると思われる。

#### 改善が必要と思われる点、今後望まれる取り組み

●心因性の問題における保健室及び相談室への来室者が増えており、相談しやすい環境が整備されていることのあらわれであるが、保健衛生部だけでなく、学校全体で組織的に生徒の心の問題について研修会を行うなど取組を企画してほしい。

●学校ホームページを通して保健衛生関係の情報提供の充実（保健だよりや感染症情報等）が望まれる。

#### その他気づいた点、疑問点など

●特記事項なし

### ☆キャリア教育と日本大学への進学指導について

#### 当該項目について関心を持っている点、特に注目した取り組み

●進路指導

●キャリア教育・キャリアレポート

1年次に進路適性検査や校外学習などで適正や職業意識づけを行い文系・理系の選択を行う。

2年次より、文系は2コース（NP = 国公立進学，GA = 総合進学），理系は3コース（NP = 国公立進学，GA = 総合進学，CST = 日本大学理工学部進学）に分けられ、受験内容や進路に対応したカリキュラムが組まれる。

#### 当該校の取り組みについて優れていると認めた点

●日本大学理工学部と同一キャンパス内に設置されているという利点を生かし、高大連携教育として構内での講演会や高校開放科目等を履修できるなどキャンパスのメリットを生かした教育が行われている（大学の施設も利用できる上、大学の先生による進路アドバイスを得られる）。

●3年生は希望により科目履修生として大学の授業に出席することが出来、よりハイレベルな知識が得られる上、CSTコースでは理工学部入学後の単位として認定されている。

●GA、NPとコースを設置した事により、進路指導・キャリア教育も含め、効果的に行うことが出来る。

●キャリアレポートの紙面は生徒の興味・関心を喚起する内容となっている。直近から比較的若い卒業生が取材対象となっていることが良い。紙面レイアウトも現役高校生が飽きないつくりになっていることも評価できる。その他進路指導部作成の冊子等も質の高いものとなっている。

#### 改善が必要と思われる点、今後望まれる取り組み

●保護者の中には、上記のCSTコースのメリットを知らない人もけっこういるので、保護者への更なる周知も必要と思われる。

●CSTコースについては、更なる発展が期待される。習志野高等学校の生徒の学力レベルは総じて高いので、特に優れた生徒は「飛び入学」の対象にする等、同一キャンパスのメリットを高めていく必要

であり、理工学部との連携をより前進させていくことが望ましい。

●上記に加え、理工学部以外の学部との連携の強化が望まれる。キャンパスも近く、併設附属高校を持たない薬学部との連携も模索が可能であると思われる。本校は理工学部の併設校であるが、設立の経緯からも理工学部と関連の深い薬学部との連携を行うことにより日本大学への進学にはプラスになることが予想される。また日本大学理工学部以外の学部（特に文系学部）との連携教育も強化していく必要がある。NP コース・GA コースについても、進学先を問わず進学意欲、大学での学習意欲の向上という部分では意味あることと思われる。

#### その他気づいた点、疑問点など

●今後の高大接続改革に対する計画及び方策について。

### ☆保護者、地域とのコミュニケーションについて

当該項目について関心を持っている点、特に注目した取り組み

- 後援会組織の充実
- 地域との連携と教育活動への還元・地域貢献活動
- 保護者会当日の公開授業

後援会は、各クラス保護者から最低1名の後援会役員が選ばれ、年7回ほど役員会がひらかれ、校長・教頭・教務・生活指導・学年主任や学校スタッフとの情報、意見交換の場として活用されている。

当該校の取り組みについて優れていると認めた点

- 後援会で、いわゆるPTA活動における強制的な負担は全く無く、情報、意見交換の場として利用されている。
- 後援会による奨学金制度及び部活動への支援が充実している。
- 定例のクラス保護者会や各種行事ごとの保護者説明会等は適切に開催され、十分にその役割を果たしている。保護者会当日の授業を公開授業（保護者参観）という形で実施している点は評価できる。

改善が必要と思われる点、今後望まれる取り組み

- 後援会活動については、保護者への還元として、大学併設校のメリットを活かし、大学教員や習志野高校教諭による保護者や地域住民向けの講演会等の企画等の実施なども検討していく必要がある。
- 地域に愛される学校として、地域との連携強化が望まれる。中学校を併設していないので、受験者の獲得も含め、地域の小中学校との連携策を検討する事が望ましい。生徒会やチアリーディング部による地域貢献も評価できるが、他の部活動等にも貢献できる余地は十分あると考えられる。

#### その他気づいた点、疑問点など

●生徒会役員の生徒と面談した際には、生徒なりのアイデアを持ち、地域との連携等についても考えている点は少なくない。教員がサポートし生徒会活動を強化できる余地は十分あると考える。

## 全体評価

<b>評価概況</b>
<p>●本年度は、上記4項目について評価を行うために、3回に亘り外部評価会議を持ち、関連する施設を中心とした施設見学、教頭及び、担当分掌（生活指導・保健衛生・進路指導）の主任より評価項目について説明を受けた。</p> <p>授業見学、生徒会役員の生徒との面談も行い、評価項目を中心に、生徒の目線による学校の現状について質疑応答を行った。</p> <p>評価委員のすべてから、本校の教育活動は、ほとんどの項目について充実した取組みとなっており、高い水準にあるとの評価を得られた。</p>
<b>評価できる点</b>
<p>●新校舎の建築とともに安全性の高い施設・設備が充実している。その後の施設整備（人工芝グラウンド・体育館専用陸橋等）においても、安全性を十分に考慮したものとなっている。</p> <p>●日本大学の付属高校のメリットを活かしながら、各自の進路目標に合わせて多様な進路が選択できるコースが設定されている。</p> <p>●CST コースでは、直接大学教員の指導が受けられる高大連携の先進的な形態となっている。</p> <p>●キャリア教育について、キャリアレポートや16歳の仕事塾等を実施して生徒に考えるきっかけを与えるものとなっている。</p> <p>●保健衛生活動については組織的にかつ適切に運営が出来ている。特に健康診断の実施状況は、定期はもちろん臨時（行事前）を実施し万全といえる。</p> <p>●後援会等の奨学金制度が充実している。</p>
<b>改善すべき点</b>
<p>●防災対応については、一通りの対策が講じてあるが更なる充実を図ることが望ましい。</p> <p>●CST コースについては、理工学部の併設校であるメリットを活かし、学校を特色付ける先進的な取組みを導入する事が望ましい。</p> <p>●理工学部以外にも日本大学のスケールメリットを活かし各学部との連携を構築する事が望ましい。</p> <p>●保護者連携及び地域連携については現状より更に発展させ、地域に愛される学校を目指してほしい。</p>
<b>その他感想</b>
<p>その他全体的な活動について下記の点につき質疑応答があった。</p> <p>●英語教育について</p> <p>当校ではグローバル教育の一環として、3年間を通してALTとのチームティーチングの授業を展開しており、現在月曜日～金曜日まで3名の外国人講師が常駐している。</p> <p>世界共通言語としての英語力の向上が一層求められる時代となっており、当校では特に「発信力」に重点を置き、ALTによる授業で自らの意見を自由に表現でき、さらには主張する力の養成を目指している。</p> <p>さらに、英語科教員を対象としたケンブリッジ大学による「英語教授法スキルアップ研修」（英国に3</p>

週間滞在)に参加し、最新の外国語教授法の習得に向け研鑽を続けている。

また今後の方針として、大学受験にも十分対応できる英作文の指導能力を兼ね備えた ALT の登用など ALT による授業をさらに充実、発展させていく予定である。

また生徒に対しては現在、2年生を対象としたロンドン(ケンブリッジ・オックスフォード)への修学旅行を実施しており、また夏には希望者を対象とした英国シェフィールドへの3週間の海外語学研修を実施している。これ以外にも、本校生徒が海外留学に出来る環境を目指し、他の付属各校の例を参考に、カリキュラムの改善、評価方法の見直し等を図っている。

#### ●授業理解不足者への対応について

3年生に対しては、受験科目を中心に放課後の補習を実施し、この中で授業理解不足者への対応を図っている。また教科担任ごとに放課後を使って、生徒への個別質問対応にあたっており、放課後、各教室棟のコモンスペース、生徒ラウンジには生徒が集まり、即興の質問コーナーが出来て、各教科の教員が生徒の指導にあっている姿が見かけられることができる。

#### ●IT機器の利用について

今後広く求められる、生徒を主体とした「アクティブ・ラーニング」を推進していくために、タブレット機器をはじめとしたIT機器の導入を検討している。既に、日大理工学部とのLAN共有など、最新のIT環境が整備されているが、28年にICT教育推進のための委員会を立ち上げる計画で、その準備段階として、情報化教員を中心としたグループで学校訪問や研究会への参加を行っている。

#### ●ホームページについて

広報担当教諭の管理の下プライバシーにも気を付けながら、学校情報の発信に役立てている。

#### ●さらに、委員からの要望と感想として

○英語教育、IT活用、ホームページやWEBを使った学校の情報発信については、今後も充実を継続してほしい。

○生徒会役員の生徒との面談を通じて、学校の満足度は高いと感じた。一方、優秀な生徒がゆえに学校に対してなかなか意見が言いづらい部分があるようである。生徒会担当教員と役員生徒とのコミュニケーションをより深めていく事がより良い発展のために望ましいと感じた。

○評価者が勤務する学校に欠けているものが、習志野高等学校の評価を行うことによってより具体化したと感じる。習志野高等学校の良い面は勤務校にも応用できると思う。また、逆に勤務校での良い取組は、外部評価会議で提言できたと思う。今後も相乗効果を生むような提言が両校の間で活発になることが望ましい形であると実感した。

○生徒の入学したい学校として、また入学してよかった高等学校の県下トップ校としての地位を、今後とも維持、さらに発展させる工夫と努力を大いに期待している。

以 上